



兵 肢 協 会 報

発 行 所

〒651-0062

神戸市中央区坂口通2丁目1-1
兵庫県福祉センター内

兵庫県肢体不自由児者協会

TEL 078-241-9907
FAX 078-241-9908
E-mail:hyoshikyo@nifty.com
URL: http://hyoshikyo.dodoo.jp

一般財団法人
兵庫県肢体不自由児者協会 理事
奥林 康代

出でじを大切に!! すべて感謝です

「兵庫県肢体不自由児者協会」に、出合わせて頂いて、三十年余りになります。私は娘の通つて居る、姫路市立書写養護学校の卒業生、在校生の親の会組織である「ばげみつづけ親乃会」の一員員であります。重度の障害児である娘は、当時中学校在校生でした。ある時「親乃会」の会長より姫路市の「講議員」に推薦されました。娘を陽の当る處で多くの人に出会わせたやつた。私がその為に努力した、そんな感じでございました。いたしから、協会への縁をお受けしました。

しかし、出席する為には、娘(泰子)の下校時に預かってもらわなくてはならない。同級生の親さん、通学バスで一緒に親さん、友人、知人に助けられ、支えて頂きました。感謝感謝!! でした。

数年すぎ、先輩の理事さんが引退され、私に「理事としての機会を頂きましたが、お役に立つて頂けるのか?」と問ひ答えた日々でした。

やがて、娘(泰子)も高等部卒業後、青年グループの行事に参加させて顶く様になりました。楽しい思い出いっぱいの旅行の数々、お友達にもたくさん出会い、現在も仲良くさせて頂ぎ、行事に出会い度に声かけをしていただこうとおひまわす。

又、私渺少では提案発言も出来る様になり、当初「旅行の集合場所」が(県)福祉センターだったので、「西の方の参加も多くなつて来ました」といって、姫路駅・加古川・明石経由で依頼したり「療育更生相談」に於いても姫路や加古川で受けさせじ頂ければとお願いしました。

「廻廊」にある先生方の考え方や想いによる方針をおあひだつたと思いますが、困難な諸条件の中、その都度障害児者に対する熱い想いで対処して下さいました。今も心より感謝しております。

そして、私の出来ることは、色々な方面に会員入会の説明の言葉をおか

ります。私は娘の通つて居る、姫路市立書写養護学校の卒業生、在校生の親の会組織である「ばげみつづけ親乃会」の一員員であります。重度の障害児である娘は、当時中学校在校生でした。ある時「親乃会」の会長より姫路市の「講議員」に推薦されました。娘を陽の当る處で多くの人に出会わせたやつた。私がその為に努力した、そんな感じでございました。

親娘で年を重なるにつれ、親(泰子)のことを常に心配して居ります。「他の諸々行事に参加して、お仲間にならましょつ」と呼びかけ、「青年グループ」へ多くの方に入会して頂きました。

「臨会の二十五回周年(五十周年)、若輩者の私も、お手伝い出来ました。事は伴せでした。「バザー」その他の手伝いもそれぞれに学ぶ事も有り、楽しむものでした。

親娘で年を重なるにつれ、親(泰子)のことを常に心配して居ります。「他の諸々行事に参加して、お仲間にならましょつ」と呼びかけ、「大きな安心と自由がある障がい者向け住宅」(名称)くまさん家の開設をして下さりました。平成二十七年七月より、娘(泰子)は入居させて頂き、お世話をうながして居ります。その一方で又ありがたい事に、協会で昨年より新たに行事の環として「樂に生活できる姿勢、動作を学ぶ会」を創定して下さりました。障害者にとっても、一生の必要とする問題ですので、非常にやり難く感謝して居ります。

これまでの私の歩み、娘への思いや皆様への感謝の気持ち等を私なりに思い出すまことに繰りせて頂きました。言葉足らずの面も多々あると思いますがお許しください。

賛助会員・青年グループ会員への増員を心より願い、又協会の今後の発展を心よりお祈り致します。

肢 体 不 自 由 児 者 協 会 は

- 一 肢 体 不 自 由 児 者 の 愛 護 思 想 の 普 及、 療 育 等 に 関 し 必 要 な 事 業 を 行 い、 肢 体 不 自 由 児 者 の 福 祉 の 増 進 を 図 る こ と を 目 的 と し、 そ の た め に、
- 二 肢 体 不 自 由 児 者 の 愛 護 思 想 の 普 及
- 三 肢 体 不 自 由 児 者 の 教 育 の 援 護
- 四 肢 体 不 自 由 児 者 の 激 励 慰 安
- 五 肢 体 不 自 由 児 者 に 関 す る 刊 物 等 の 発 行 以 ピ 館
- 六 肢 体 不 自 由 児 者 の 福 祉 に 関 す る 調 査 及 び 研 究
- 七 日 本 肢 体 不 自 由 児 協 会 及 び 関 係 諸 団 体 と の 連絡